

令和4年度
事業報告

令和5年5月
公益財団法人 群馬県青少年育成事業団

目 次

I 法人の概況

	頁
1 設立年月日	1
2 定款に定める目的	1
3 定款に定める事業内容	1
4 主務官庁に関する事項	1
5 主たる事務所・事業所の状況	1
6 役員の役割等に関する事項	1
7 職員に関する事項	2
事業団組織図	2

II 事業の概況

1 事業一覧表	3
A 指定管理事業	
(1) 青少年等の活動場所の提供事業	6
(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業	12
(3) 青少年の交流・体験活動事業	18
(4) 青少年団体の育成及び指導事業	24
(5) 情報収集・情報提供システム事業	32
B 自主事業	
(1) 青少年活動支援事業	34
(2) 地域連携協力事業	36
(3) 補助事業	38
C 受託事業	
青少年自立・再学習支援事業	39
2 重要な契約等に関する事項	43
3 役員会等に関する事項	45

事業報告

I 法人の概況

1 設立年月日
昭和56年11月16日

2 定款に定める目的

この法人は、設立の趣旨を踏まえて、青少年の健全育成に関する諸事業及び青少年団体の育成並びにその事業を行う施設の管理運営を行い、もって本県の次代を担う青少年の健全な育成に寄与することを目的とする。

3 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成を目的とした企画事業
- (2) 青少年及び青少年団体が行う主体的、自主的な活動の支援
- (3) 青少年団体の育成及び助言並びに研修の実施
- (4) 青少年の健全育成に関する資料の収集及び情報の提供
- (5) 青少年の健全育成に関する相談事業
- (6) 青少年の健全育成に関する調査研究
- (7) 青少年の健全育成に関する施設等の管理運営の受託
- (8) その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

4 主務官庁に関する事項

群馬県生活こども部県民活動支援・広聴課 公益法人係

5 主たる事務所・事業所の状況

- (1) 財団事務局：群馬県前橋市荒牧町2番地12 群馬県青少年会館内
- (2) 事業所：群馬県青少年会館

6 役員の役割等に関する事項（令和5年3月31日現在）

- (1) 評議員（6名）
任期：令和元年6月11日から4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで

(あいうえお順)

氏名	常勤・非常勤の別
栗原 ウメ子	非常勤
小林 昭紀	〃
鯉登 基	〃
森谷 健	〃
山田 和豊	〃
吉川 真由美	〃

評議員は、評議員会を構成し、法令及び定款で定める事業団の基本的事項を意思決定する。

- (2) 理事（9名）
任期：令和3年6月8日から2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで

(理事：あいうえお順)

職	氏名	常勤・非常勤の別
理事長 (代表理事)	太田 大森	非常勤
副理事長	青木 美幸	非常勤
常務理事 (業務執行理事)	中村 洋	常勤
理事	大川 由明	非常勤
理事	大澤 京子	非常勤
理事	金子 敏男	非常勤
理事	櫻井 常矢	非常勤
理事	富澤 香	非常勤
理事	齊藤 千春	非常勤

理事は、理事会を構成し、法令及び定款で定めるところにより、職務を執行する。

理事長は、事業団の代表理事として、理事会の決定に基づき業務を統括し、業務を執行する。（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事）

副理事長は、理事長に事故あるとき又は欠けたときは理事長の職務を執行する。

常務理事は、理事長及び副理事長を補佐して業務を処理し、理事長及び副理事長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。（一般社団法人及び一般財団法人に関する法立第197条において準用する第91条第2号の業務執行理事）

(3) 監 事 (2名)

任期：令和3年6月8日から2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで)

氏 名	(あいうえお順)	
	常勤	非常勤の別
塩 谷 聡		非常勤
田 口 紀 雄		非常勤

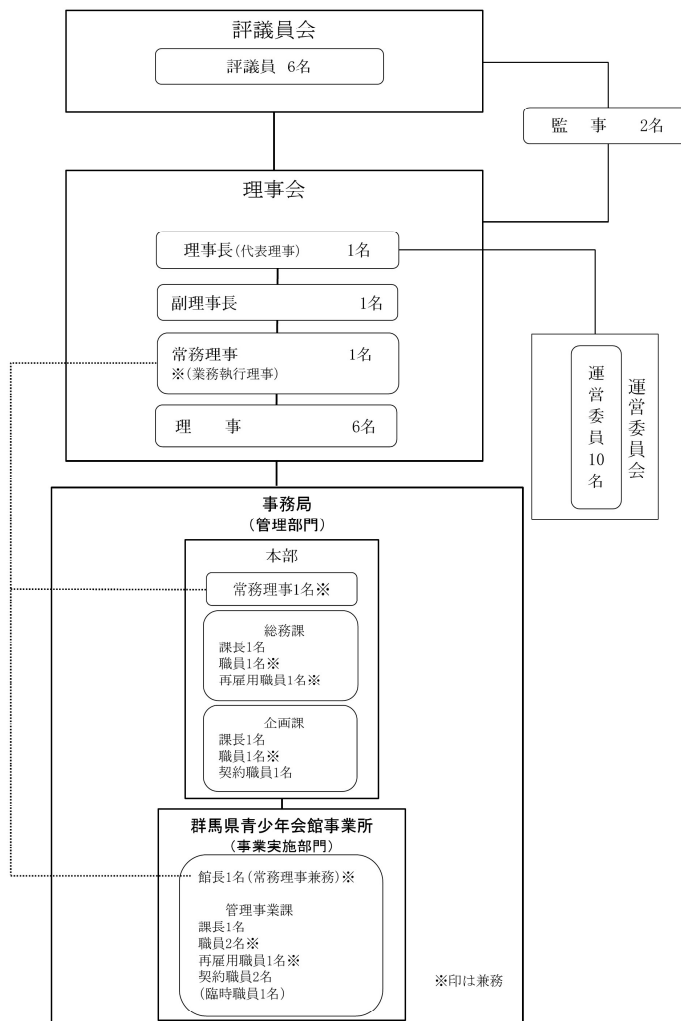
監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

7 職員に関する事項 (令和4年3月31日現在)

職 員	契約職員		合 計			平均 年齢	平均 勤続年数	
	男	女	男	女	計			
5	0	2	2	7	2	9	51歳	14年

注 非常勤職員を除く

公益財団法人 群馬県青少年育成事業団組織図



※印は兼務

II 事業概況

A 指定管理事業

事業名	趣旨・目的	事業内容	実施時期	過年度からの改善点	
(1) 青少年等の活動場所の提供事業	青少年会館の管理・運営をとおして、青少年及び青少年団体の自主的かつ創造的な活動の場を提供し、青少年の健全育成に寄与する。	青少年の活動場所提供業務、会館の施設設備等維持管理業務、予約システムの運用業務、施設利用の承認事務、施設利用料収納事務、広報事務、安全管理業務、職員研修、会計経理給与事務、その他管理運営に必要な業務	通年	<ul style="list-style-type: none"> 館内レストラン休業中の対応として利用者に弁当配達可能な飲食店を複数紹介 宿泊室のカーテン交換 経年劣化したロビーのソファ生地張替 ワークスペース整備 会館花壇で育成したポット苗を利用者へ配布 職員が手作りした遊びのコーナー設置や折り紙細工の配布等 Web をリニューアルし、会館の利用案内を重点に構築 Wi-Fi を大会議室、中会議室、小会議室、多目的学習室に設置し、利用者の利便性を向上 	
青少年健全育成事業	趣旨・目的	事業内容	実施時期	過年度からの改善点	
(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業	① 子どもふれあいワークショップ	子どものいる場所に関わっている(または関心のある)青年を対象に、子どものよりよい関わり方や距離間を学び、地域活動に積極的に関わる人材を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> 指導力向上を目指した講義及びワークショップ等の演習 情報交換、交流 	2/25(土)	昨年度の参加者アンケート回答を参考に子ども同士がコミュニケーションを深める学びをプログラムに取り入れた。
	② 中学生・高校生交流ボランティア体験	中高生にボランティア活動を学ぶ機会を設けるとともに活動の実践を通して互いの交流を深める機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに関する基礎的知識の習得 ボランティアの実践 生徒同士の交流 	講義 1/28(土) ボラ活動の実践 1/29(日)	ボランティア活動初心者に配慮して事前研修を充実させた。また、実践では青少年団体事業と連携し、指導者の下でボランティアを実践できた。
	③ 体験活動・ボランティア活動支援センター	青少年及び指導者のボランティア活動に関する情報を収集し、ボランティア活動を希望する青少年等とそれを必要とする学校や青少年団体との連絡調整を行い、協働の機会を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に関する情報収集と提供 活動希望者と希望者を受け入れる学校・団体との連絡調整 	通年	団体創設の相談(初の事例)に関わり、これまでのネットワークを生かした支援を行うとともに活動の場を提供できた。
(3) 青少年の交流・体験活動事業	④ ふれあい・ゆーあい交流フェスタ	障がいのある人とない人がともにふれあい、ともに活動・交流する楽しさを体験するため、障がいを抱える子ども及びその保護者や支援団体、青少年団体、ボランティアと「心のバリアフリー」をテーマに活動する。	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児の活動を支援する団体等との連絡調整 実行委員会組織の設置 コロナ禍における「ふれあい・ゆーあい交流フェスタ」のあり方検討 	実行委員会 ① 6/24(金) ② 8/17(水) ③ 9/28(水) ④ 11/2(水) ⑤ 1/18(水) パネル展示 1/18(水)～1ヶ月間	実行委員でフェスティバルの代案について検討を重ね、障がいのある子どもたちの団体活動や青少年団体の取り組みを伝えるパネル展示を開催し、令和5年度開催に向けた足がかりができた。
	⑤ 親子ふれあい体験教室	親子の共同作業を通して、親子や参加者のふれあいを深める。また、レクリエーションにより、参加者の交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 親子で一緒に木工作業 制作作品の紹介 参加者と青少年団体とのレクリエーションによる交流 	7/23(土)	キャッチフレーズを「親子のギズナをカタチに」とし、親子で作品と共に記念撮影するコーナーを作った。
	⑥ 高校生写真講座	写真の知識や技能を高める学びを提供する。また、班活動による撮影や組み写真の制作と発表を通して参加者の交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 写真撮影を通しての交流 デジタルカメラの基礎知識、技術の習得 グループワークによる組写真の制作 	9/10(土)	大学教授を講師に招き、撮影技術や表現法について専門的な講義を行った。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(4) 青少年団体の育成及び指導事業</p>	<p>⑦ 青少年団体活動支援事業</p>	<p>各青少年団体と連携し、子どもの課題解決能力や社会性を育む。また、各青少年団体の特性を生かして体験活動の提供と高校生のボランティアの養成を行い、団体活動やボランティア活動の魅力を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年団体の情報収集 ・青少年団体の事業支援 ・青少年団体と共催事業の開催 ・群青連協加盟団体に担当配置 	<p>(7) 夏休みお助け隊 8/7(日)</p> <p>(イ) 親子で茶道教室 12/4(日)</p> <p>(ウ) 目指せ！ギネス記録～君の飛行機はどこまで飛ぶ!?～ 1/29(日)</p> <p>(エ) ボランティアのつどい 3/11(土)</p>	<p>(7) 募集定員を2倍にした。関連して体験活動の時間は3班のローテーションで行い、進行を工夫した。また、高校生ボランティアを募集し、幅広い年代の交流ができた。</p> <p>(イ) 共催者と対話を重ね、事業計画に新たに追加して実施した。午前の部と午後の部で実施できた。</p> <p>(ウ) 新規で実施した。会館事業でボラ研修を修了した中高生がスタッフで参加した。</p> <p>(エ) 4年ぶりに開催できた。近隣の高校へ担当が出向き担当教諭に事業説明を行ってボランティアを募集した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(5) 情報収集・情報提供システム事業</p>	<p>⑧ ぐんま青少年ねっと</p>	<p>Web・ブログ・SNSにより青少年会館及び、青少年健全育成事業の情報を発信する。また、会館利用者がインターネットを利用できる環境を整え、青少年の自己学習や情報収集を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会館運営、事業情報の提供 ・Web等の管理・更新作業 ・事業・利用に係る通信環境、データベース等の管理と運用 	<p>通年</p>	<p>Twitterを開設し事業と会館の様子を中心に発信するとともにFacebookとブログを年間50回以上更新した。</p>

B 自主事業

事業名	趣旨・目的	事業内容	実施時期	過年度からの改善点	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(1) 青少年活動支援事業</p>	<p>① 青少年会館友の会事業</p>	<p>会館を拠点とする「青少年会館友の会」と連携し、青少年の健全育成活動を共催・協働で実施する。また、会員に青少年会館の各事業への参画やボランティア実践の機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめすくーる（大学生参画による小学生対象の体験教室） ・会館事業へのボランティア参加 ・自主的活動の支援 	<p>通年（活動支援） ゆめすくーる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/2(日) 午前・午後 ・10/9(日) 午前・午後 ・11/6(日) 午前・午後 ・12/18(日) 午前・午後 	<p>活動支援で県生涯学習センターと連携し、パルレーンアート指導者として活躍の場を提供した。また、友の会主催「クリスマスリースづくり」の広報を支援した。共催の「ゆめすくーる」は1日2回（午前の部・午後の部）で実施した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(2) 地域連携協力事業</p>	<p>② 地域連携協力事業</p>	<p>市町村や県内団体及び学校等の事業と連携し、ニーズに対応した体験活動や研修を受け入れる。また、県内で開催されるイベント等に参加・協力し、地域との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等からの施設見学や職場体験への協力 ・社会教育施設及び青少年団体等が主催するイベント等へのブース出展及び運営協力 ・県内ボランティア団体が主催する教育プログラムの共催協力 	<p>(7) ライオンズクエストワークショップ 8/9(火)</p> <p>(イ) 外部団体協力（あかぎフェスタへブース出展） 10/23(日)</p> <p>(ウ) 群馬大学「社会教育実践研修Ⅱ」協力 12/23(金)</p> <p>(エ) 体験の風をおこそう運動実行委員会出席 7/29(金)、2/7(火)</p>	<p>(7) 参加対象者である若手教職員が参加しやすい時期を調査し、8月に開催した。</p> <p>(イ) 体験活動ブースの運営を会館友の会の指導者と連携した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(3) 補助事業</p>	<p>③ 団体補助</p>	<p>団体の活性化を図るために、会館に事務局を置く5団体へ補助金を交付する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局運営用補助金の交付（4万円×5団体） 		

C 受託事業

事業名	趣旨・目的	事業内容	実施時期	過年度の改善点
① G-SKY Plan ② 地域における 学びを通じた ステップアップ支 援促進事業	悩みを抱える青少年及び保護者に対して相談を行い、必要に応じて体験活動を実施するなど、不登校やひきこもりからの立ち直りや社会的自立を支援する。また、高校中退者等の再学習の相談・支援体制の充実を図り、各種情報の提供や学習相談を行う。	・コーディネーターの配置 ・青少年とその保護者・学校からの相談対応 ・体験活動受入事業所等の情報収集、連絡調整 ・体験活動のコーディネート ・再学習支援のための各種情報の収集、提供	通年(相談・面談・体験)合同会議(4回) 4/15(金)、7/7(木) 12/9(金)、3/8(水) 進路相談会(2回) 8/28(日)、10/22(土)	前橋市、渋川市の民生委員へ広報活動を行った。また、県社会福祉協議会、前橋市社会福祉協議会等を訪問し、職員や関係団体に事業説明を行った。進路相談会の参加校を増やすため、群馬県私立通信制高校等連絡協議会と情報交換を数回行い、協力校との調整を進めた。
	高校中退者等を対象に、高等学校卒業程度の学力を身に付けるための学習相談及び学習支援を行う。	・学習相談 学びに応じた教科書や副教材の紹介、高卒認定試験の紹介、教育機関や修学のための経済的支援の紹介等 ・学習支援 青少年会館を活用し、高卒認定試験等の受験を目指す学習者に対して個別に学習支援を行い、学習者の自立を促す。	学習相談・支援等 4/1～3/14 学習会 60回	相談者には学習会の他、面談及び相談で学習支援を行った。また、支援員の大学生から奨学金の情報や学生生活の様子を相談者に伝える機会を設けた。

A 指定管理事業

(1) 青少年等の活動場所の提供事業

群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）の設置目的・業務に添った運営を行うべく、施設の利用については、青少年の育成に関する諸事業並びに青少年及び青少年関係団体、学校等の自ら企画した事業等の活動場所の提供事業と位置づけ、当事業団の公益目的事業として運営を行った。

- ・設置目的
青少年団体活動の振興及び青少年の健全な育成を図るため設置
（群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）第2条）
- ・業務
青少年の健全な育成を推進するための業務、青少年団体の育成
（設管条例第2条の2）
- ・施設概要
敷地面積：8,862㎡
建築延べ面積：3,676㎡（本館2,746㎡ 新館930㎡）
- ・指定管理期間
令和2年4月1日～令和7年3月31日（5年間）
- ・管理運営体制
 - a 組織体制
事務局の責任者は常務理事（館長）とし、総務課と企画課の2課、群馬県青少年会館事業所に管理事業課を置く。
総務課3名（含：兼務2名）、企画課3名（含：兼務1名）、管理事業課6名（含：兼務3名）（非常勤職員除く）
 - b 適切な職員の配置
企画課及び総務課に、社会教育主事有資格者を4名配置した。主催事業の充実を図るため、そのうち1名を青少年教育主事として独自に発令した。総務課には、簿記等その業務に必要な有資格者を3名配置した。
 - c 職員の資質、知識向上
各職員への全体研修、利用者対応に関する研修、安全管理研修、他施設との合同研修、青少年健全育成事業のための技能向上研修など、内部、外部の研修・訓練等を実施し、職員の資質向上に努めた。

① サービス向上の取り組み

ア 接客研修

講師：(株)アクロスプラン

テーマ：「接客・電話対応ブラッシュアップ研修」

概要：ビジネスマナーと受付・誘導マナーの要点を再確認し、窓口のロールプレイで接客やクレーム対応を研修した。



接客研修

イ 受付対応と業務マニュアルの見直し

宿泊者の適切なシーツ利用を促進するため、利用前の各宿泊室へ人数分のシーツを配布するよう改善した。

職員が業務を適正に処理できるよう、宿直、B勤務、C勤務の各マニュアルを適宜修正した。

ウ 平等、公平な利用者サービスの提供等

施設予約の受付期間と受付時間を遵守し、平等、公平な受付業務を引き続き実施した。

接遇研修の学びを生かし、おもてなしの心、サービス精神を持って対応を心がけた。

エ 職員間の情報の共有化

利用者に対し、どの職員でも同様な対応ができるよう、毎月始めに運営会議（課長等会議）と課内会議、毎日の業務開始時の朝の会で、課を越えた職員の情報の共有化を図った。

また、交代勤務の中で各職員が毎日の状況を把握するために、事務室内に業務日誌を常設し、行事・修繕・点検・苦情と要望の記録がすぐに確認できるよう工夫した。

オ アンケートや聞き取り調査等の実施とフィードバック

事業参加者には、各事業終了時全員にアンケートを実施した。施設利用者には、毎回、代表者へアンケートを実施した。また、館内に投稿箱とアンケート用紙を常備し、ホームページにはご意見箱を掲載し受け付けた。

アンケート等での苦情、要望等で改善可能なものは速やかに対応・改善した。また、フィードバックはWeb等でご案内した。

※主な対応内容

要望：会議室でWi-Fiを使いたい。

対応：大会議室、中会議室、小会議室、多目的会議室にWi-Fi環境を整えた。

要望：宿泊時の食事を予約したい。

対応：HPや予約受付時に配達可能な飲食店を紹介した。

カ 外部研修の参加や情報収集の実施

青少年健全育成事業の企画力・技能向上に関する外部研修等に出席し、他施設の状況や社会教育の最新情報の収集に努めた。

「社会教育実践研修」群馬県生涯学習センター 4名

「子どもの居場所活動 情報交換会」前橋市社会福祉協議会 1名

「ロケットストーブ制作」群馬県青少年施設連絡協議会（東毛青少年自然の家） 1名

「社会教育研究大会」群馬県教育委員会・群馬県社会教育委員連絡協議会 1名

「第3回子ども・若者支援フォーラム」子ども・若者支援フォーラム実行委員会 1名

「日本青年館財団設立100周年記念式典・日本青年団協議会結成70周年記念企画」（一社）日本青年館・日本青年団協議会 1名

「前橋市社会教育委員会議」前橋市教育委員会 2名

（公財）群馬県産業支援機構 Webの制作と運用、中期計画及び事業計画策定に係る相談 3名

（公益）群馬県スポーツ協会、ぐんまこどもの国 運営及び事業の情報収集 2名

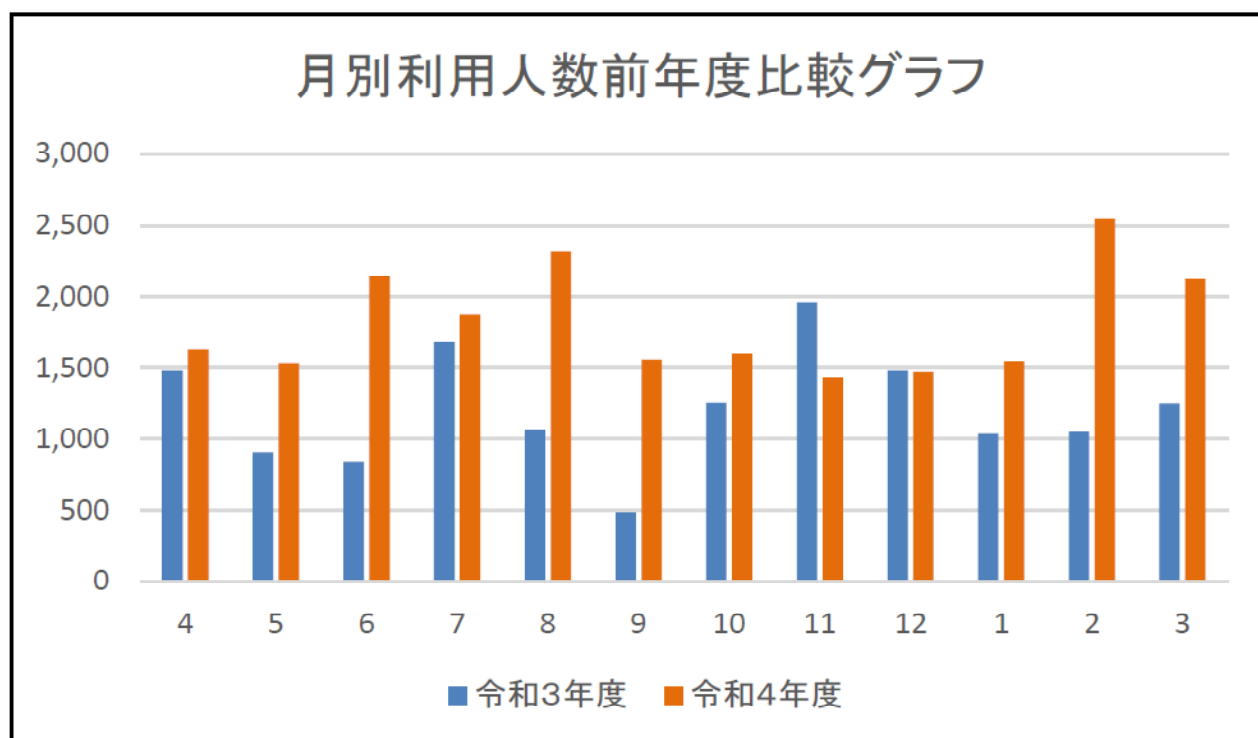
② 年間利用集計

ア 利用人数

令和4年度月別のべ人数利用人数実績（前年度比較）

月	令和3年度 (A)						令和4年度 (B)						比較 (B) - (A)						
	日帰り		宿泊利用		合計		日帰り		宿泊利用		合計		利用人数	日帰り		宿泊利用		合計	
	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	対前年比	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数
4	77	1,424	1	52	78	1,476	70	1,628	0	0	70	1,628	110.3%	△ 7	204	△ 1	△ 52	△ 8	152
5	55	903	0	0	55	903	76	1,532	0	0	76	1,532	169.7%	21	629	0	0	21	629
6	51	834	0	0	51	834	78	1,827	4	316	82	2,143	257.0%	27	993	4	316	31	1,309
7	88	1,595	1	86	89	1,681	78	1,699	8	174	86	1,873	111.4%	△ 10	104	7	88	△ 3	192
8	43	1,068	0	0	43	1,068	72	1,746	10	564	82	2,310	216.3%	29	678	10	564	39	1,242
9	46	485	0	0	46	485	68	1,445	2	113	70	1,558	321.2%	22	960	2	113	24	1,073
10	68	1,225	1	26	69	1,251	60	1,497	3	104	63	1,601	128.0%	△ 8	272	2	78	△ 6	350
11	81	1,752	4	207	85	1,959	64	1,276	4	150	68	1,426	72.8%	△ 17	△ 476	0	△ 57	△ 17	△ 533
12	80	1,356	4	120	84	1,476	61	1,174	10	293	71	1,467	99.4%	△ 19	△ 182	6	173	△ 13	△ 9
1	57	997	1	39	58	1,036	77	1,544	0	0	77	1,544	149.0%	20	547	△ 1	△ 39	19	508
2	48	1,051	0	0	48	1,051	80	2,546	0	0	80	2,546	242.2%	32	1,495	0	0	32	1,495
3	69	1,247	0	0	69	1,247	73	1,541	8	579	81	2,120	170.0%	4	294	8	579	12	873
計	763	13,937	12	530	775	14,467	857	19,455	49	2,293	906	21,748	150.3%	94	5,518	37	1,763	131	7,281

令和4年度の施設利用者数は、延べ21,748人（対前年度比150.3%）であった。



※参考 令和4年度新型コロナ関係

【第7波相当期間】 7月下旬～10月下旬

【第8波相当期間】 11月中旬～3月初旬

なお、令和3年度は5～6月（第4波）、8～9月（第5波）、1月下旬～3月（第6波）の影響で利用者が少なかった。

■前期

4～5月は新型コロナの影響から抜けきれず、宿泊予約は全てキャンセルになった。また、7月は県外学校の夏休み期間中の活動制限の影響から合宿のキャンセルが多く、また、8月も宿泊予定者の中で感染者が発生するなど5団体のキャンセルがあった。

■後期

11～3月の間、県執行の本館空調工事（プレイホールを除く全館）のため、宿泊室及び会議室の予約を大幅に制限しなければならなかった。また、その影響で12～3月は宿泊予約がほぼ受けられなかった（1～2月は0件）。

■その他

館内レストランの食事提供サービスがないためニーズに応えられず、予約に至らない問い合わせが多数あった。この対策として配達可能な飲食店業者の情報を収集して紹介した。

イ 利用料収入の実績

平成26年度より利用料金制が導入された。令和4年度は4,142,705円の利用料収入があった。

月	利用料収入		
	令和3年度（A）	令和4年度（B）	（B）－（A）
4	345,560	292,680	△ 52,880
5	163,940	270,050	106,110
6	117,100	332,480	215,380
7	298,090	379,360	81,270
8	107,000	589,130	482,130
9	108,260	338,540	230,280
10	219,920	273,870	53,950
11	485,045	268,065	△ 216,980
12	303,360	280,310	△ 23,050
1	183,690	292,050	108,360
2	172,110	302,000	129,890
3	232,130	524,170	292,040
合計	2,736,205	4,142,705	1,406,500

ウ 広報、利用促進活動

- ・館報、会館リーフレット等を県内全域に配布した。
- ・職員がWebを年間30回更新して会館利用や事業の周知を行った。またWebの全面リニューアルを行い、利用情報が見やすいページを構築した。
- ・Facebookとブログを年間50回以上更新し、主催事業等の情報発信を行った。
- ・Twitterを開設し、事業、利用の様子、季節感のある周辺の様子を発信した。
- ・既存の会館ロゴ・キャッチコピーを活用した壁面看板とのぼり旗を制作した。
- ・群馬県が推進するぐんまWi-Fiプロジェクトの光ステーション（1階ロビー周辺の無料公衆無線LAN環境）を継続して利用者に提供した。

③ 環境整備及び修繕の取組

ア 環境整備

- ・職員が日に一日2回館内外を巡視する等、設備の確認や利用者の安全を第一に常に緊張感をもって管理を徹底した。
- ・雰囲気づくりに配慮し、七夕や節句に合わせて季節の飾りや花壇で育成した草花等を館内に飾った。また、栽培した苗の一部を利用者が自由に持ち帰れるようロビーに配置した。
- ・学習ワークスペースと受付前をリニューアルし、明るく快適な空間を確保した。
- ・指定管理仕様書に示された管理基準により関係法令を遵守し、施設設備の日常点検、保守管理等を実施した。
- ・年1回の備品総点検を行い、適正な管理に努めた。
- ・利用者との事前打ち合わせや宿泊前のオリエンテーションを徹底し、トラブルの未然防止を図った。
- ・植栽管理は、年2回の業者委託の他、群馬県青少年団体連絡協議会と連携した会館清掃及び職員による日常的な除草作業、インターロッキングの草取作業を実施し、環境維持に努めた。

イ 修繕

- ・経費節減のため、軽微な修繕はできるだけ職員で行った。また、ベテラン職員を中心に既存設備のメンテナンスや修繕工具取扱いの情報共有を図った。
- ・修繕を次のとおり実施した。
ガス警報器交換、駐車場松の丈下げ、1階照明器具取替（3台）、第1～4和室レースカーテン取り替、宿泊者用スリッパ交換、新館1階ロビーソファー布地張替、本館2階男子トイレ漏水修繕、音楽室ピアノ調律、火災報知器交換（5カ所）、会議室Wi-Fi機器整備



職員による植栽管理



ポット苗を利用者に配布



職員の除草作業



群馬県青少年団体連絡協議会 会館清掃



ワークスペース整備・ソファ布地張替



ロゴ・キャッチコピーを活用した看板設置

④ 緊急時の体制・対応、防災、感染症対策

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、県で示された予防マニュアル等に従い、館として、できる限りの予防策を実施し利用を受け入れた。(手指消毒用アルコールの複数設置、スピーディーに検温できる非接触式検知器を一番出入りの多い東通用口に設置、携帯の非接触型体温計を複数準備、マスクの着用、各室の定員を制限、3密回避、換気の実施、大きな声を出さないよう指導等)
- ・危機管理マニュアルを修正・更新した。
- ・消防署職員を講師に招きAEDを使用しての救急救命講習、警察署生活安全課職員を講師に招いての不審者対応訓練(防犯訓練)をそれぞれ1回実施した。
- ・入居青少年団体事務局とともに自衛消防隊を組織し、消防訓練を年2回実施した。その内の1回は消防署職員の派遣を依頼し、防災に関する専門的な知識を学んだ。



救命講習



消防訓練



防犯訓練

⑤ 青少年団体や地域住民等との連携

- ・寿楽園や近隣小中学校などの近隣施設との連携・交流を図った。
- ・荒牧町自治会と周辺地域に関する情報交換を行った。
- ・青少年健全育成事業で県内大学や前橋市教育委員会等と連携し、講義や事例発表に協力した。
- ・群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体の総会や会議に参加した。

- ・ライオンズクラブ国際協会333-D地区と連携して共催事業を実施した。
- ・前橋市の管理事務所に協力を得て、会館駐車場満車時にばら園駐車場を借りた。
- ・青少年会館友の会や群馬県青少年団体連絡協議会の協力で1階ロビーにクリスマス飾りや子どものクラフト教材（わくわく袋）を配置した。また連動して職員が遊びのコーナーを併設した。



会館友の会提供 クリスマスリース



群馬県青少年団体連絡協議会提供 わくわく袋



ロビーに子どもの遊びコーナーを設置

⑥ その他

ア 情報公開及び個人情報保護への取り組み

情報公開規程に基づいた情報公開及び個人情報保護規程、特定個人情報保護規程に基づいた個人情報保護を行った。

イ 法令遵守

諸規程整備等を実施し、法令に基づいた運営を実施した。

ウ 環境保全

- ・節電、省エネの取組を通年で実施し、利用者にも節電の協力を呼びかけた。
- ・夏期に建物内部の温度上昇を抑えるため、新館1階トップライト等に遮光ネットを設置した。
- ・冬季に新館2階の防火戸を閉め、暖房効率を上げる工夫をした。
- ・ペットボトルキャップの回収箱を設置した。

(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業

「子どもふれあいワークショップ」

1 事業目標

子どものいる場所に関わっている（または関心がある）青年を対象に、子どもへのよりよい関わり方を学び、地域活動に積極的に関わる人材を育成する。

2 事業概要

(1) 期日：令和5年2月25日（土）

(2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在勤の地域青少年活動指導者など19歳以上の人 15名

(3) 参加状況

ア 参加者合計 15名、 申込人数 17名（キャンセル 2名）

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生4 ~6年	中学生	高校生		専門短 大 大学 生	社会人 保護者	総計
参加者数							3	12	15

イ スタッフ ・講師 2名

3 事業実施のポイント

- ①「笑顔の輪を広げる」というテーマのもと、どんぐりを用いた遊びやクラフトを通してコミュニケーションを深める手立て、子どもと触れあう際のポイントを「聞く」「伝える」に絞ったワークショップを実施した。
- ②昨年度のアンケートから、「子ども同士がコミュニケーションを深める手立てを学びたい」という意見を反映させ、プログラムを構築した。
- ③新型コロナウイルス感染対策により、共有物に触れる際は消毒を適宜行うなど、安全面に配慮した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
2月 25日 (土)		あそびのワークショップ ・開講式 ・スマイルどんどん↑↑どん ぐりあそび♪ ・笑顔の輪を広げる♪ 聞く力&伝える力 ・ふりかえり・閉講式	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・学んだ内容を生かして、子どもとの関わり方がより良くなればと思った。グループの雰囲気も和やかで、他の方の意見を直接聞くことにより、様々な考え方・新しい気づきをたくさん得ることができた。
- ・小学生と触れあう機会が多いが、すぐに実行できる内容で申し込みの時から楽しみだった。明るく楽しい講師の方々と、とても時間が短く感じた。明日も子ども達とふれあうが、少し優しくおだやかに接することができると思う。
- ・どんぐりというツールだけで、様々な広がりがあることに驚いた。親業の話でも、たくさんの気づきがあった。どちらも主役は子どもであること、子ども自身が気づき、考えていくために大人がどう関わっていくのかという視点が大切だと思った。
- ・どんぐりでこんなに遊べるのだと知り、創造力を豊かに考えていくことの大切さに気付くことができた。1つのことを突き詰めて新たな価値を創造する講師の姿勢に感化された。
- ・能動的な聞き方・主語を「私」にして語ることは、人との関わり方の中でとても重要なことだと知った。今後も自分や周りの人も幸せになれるよう、技法を活用していきたい。

(2) 成果

- ・両講師と担当が打合せを念入りに行い、新型コロナウイルス感染対策を踏まえたプログラムにしたため、参加者は安心して受講することができた。
- ・社会教育や体験活動の意義、その手段として身近な素材である「どんぐり」を活用できることを伝えることができ、参加者にとって有意義なプログラムを提供することができた。
- ・どんぐりを活用して様々な遊び方があることを伝えることができた。4つのグループで考えたどんぐり遊びを発表しあい、アイディアの幅を広げることができた。
- ・2人組で行うワークショップと講義をバランス良く構成したプログラムであり、参加者は集中して熱心に受講していた。
- ・ワークを行う際のシチュエーションが適切であり、参加者は実体験を基に学びを深めることができた。

(3) 課題

- ・近年、少子化・価値観の多様化などにより、社会教育活動に参画しようとする青年が減少傾向である。さらには、新型コロナウイルスの影響により、地域活動やボランティア活動が中止・縮小しており、活動の場そのものが減少している。当事業は、地域活動に参画するためのスキル向上を図ることがねらいであるが、現状では参画以前に参加する機会を提供する方が多いように感じる。
- ・現状とニーズに沿ったプログラムを構築するため、毎回調査研究をする必要がある。特に青年層の率直な意見に耳を傾けたい。

6 事業の様子



どんぐりあそび



聞く力・伝える力

担当 山田 貴史

「中学生・高校生交流ボランティア体験」

1 事業目標

県内の中学生・高校生に対し、ボランティア活動に対する知識を伝授するとともに、活動の実践を通して交流を深める機会を提供する。また、ボランティアに対する意識啓発を行うことにより、継続した活動を推進する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年1月28日（土）・29日（日）
 ※新型コロナウイルスの影響により、日程およびプログラムを変更した。
 ※県教育委員会へ指定管理事業計画の変更協議を行った。
- (2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在学の中学生・高校生 15名
- (3) 参加状況

ア 参加者数（実人数） 8名、 申込人数 12名（キャンセル4名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生4 ～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数				2	6			8

イ 講師 2名

3 事業実施のポイント

- ①群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体（以下、群青連協）の主催事業（当会館は共催）「目指せ！ギネス記録～君の飛行機はどこまで飛ぶ!？」にて、ボランティア活動の実践を行った。内容は、事業の参加者（小学生）に対して、紙飛行機づくり・紙飛行機とばし・スライムづくりの補助を行った。
- ②初めてボランティア活動に取り組む中高生が安心して実践できるよう、事前研修の充実化を図った。
- ③新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者を少人数に絞った。当初の定員は15名を予定していたが、ボランティア活動の内容を考慮し、参加者が10名前後になるように周知の調整を行った。また、青少年会館のマニュアルに沿い、参加者同士の距離の取り方などを配慮して実施した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
1月 28日 (土)		<ul style="list-style-type: none"> ・開講式・諸連絡 ・コミュニケーションゲーム ・講義「ボランティアの心得 ・子ども達との関わり方」 ・体験活動に向けて 	
1月 29日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・諸連絡 ・ボランティア活動実践 スライムづくり 紙飛行機づくり 紙飛行機飛ばし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動実践 活動内容は午前と同様 ・ふりかえり ・閉講式 	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・ 普段の学校生活では、体験できないような貴重な体験をすることができてよかった。またこれを機会に、今後様々な活動に参加したいと思った。
- ・ 初めてのボランティア活動であり、緊張や不安でいっぱいだったが、施設の方々のご指導の下、とても楽しく面白く参加することができた。これからのボランティア活動に生かせることをたくさん学んだ。
- ・ 小さい子と関わることがあまりなかったため、とてもよい経験になった。実際、私は子どもと関わる仕事に興味があり、将来の職業へのビジョンが明確になった。
- ・ 高校生になってから、ボランティア活動をやりたいと思っていたが、コロナの影響でなかなか募集がない中、やっと見つけることができた。

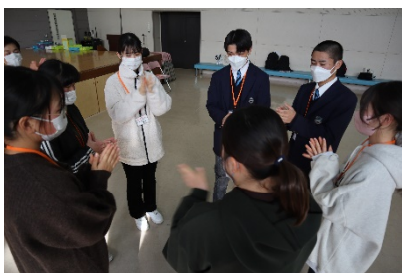
(2) 成果

- ① 最初は緊張していた受講者が、講師のコミュニケーションゲームでみるみる笑顔になり、リラックスして前向きにボランティアについての講義に臨むことができた。年齢が上がれば上がるほど、アイスブレイクは緊張をほぐす大切な技法だと感じた。
- ② 前日準備に参加することで、群青連協スタッフとの交流を深めることができた。また、子ども達がどのように参加するか、活動するかイメージ化を図ることができた。2日間の事業だったため、参加者同士の交流がより一層深まっていった。
- ③ 当日は、受講者全員が膝をついたりしながら子ども目線での支援に努めるなど、子どもに寄り添う姿勢が感じられた。中高生が笑顔で接することで、緊張していた子ども達も笑顔で活動することができた。

(3) 課題

- ・ 近年、特に高校生のボランティア受講希望者が増加している。なるべく多くの方の希望に沿うことが望ましいが、適度な定員数に設定する方がきめ細やかな指導ができる。また、参加申込者の意志に沿い、なるべく先着で受付をしたいが、状況によっては抽選も検討する必要がある。

6 事業の様子



コミュニケーションゲーム



紙飛行機飛ばしの準備



スライムづくり補助

担当 山田 貴史

「体験活動・ボランティア活動支援センター」

1 事業目標

ボランティア活動を希望する青少年等とそれを必要とする地域の団体や機関との連絡調整を行い、協働の機会を提供する。また、青少年および指導者のボランティア活動に関する情報を収集し、提供する。

2 事業概要

(1) 期日：通年

(2) 相談状況 2/28現在

8件

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生4 ~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数					1		7	8

3 事業実施のポイント

- ① ボランティア活動・体験活動を希望する個人団体に情報を提供し、ボランティア活動の促進を図った。
- ② ボランティアおよび指導者の紹介を希望する団体校等に対し、必要な人材をコーディネートした。
- ③ 新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、広報等を柔軟に行った。

4 活動・相談内容

活動・相談日	内容
5月 6日	【相談1】 子どもを対象とする事業を行う任意団体創設の相談に対し助言
5月22日	【相談2】 レクリエーションプログラムの指導者紹介を希望
5月24日	【問合せ1】 小学生対象の地域活動におけるボランティア紹介
5月28日	【相談3】 結成した学生ボランティア団体の活動受け入れ場所の紹介
6月 8日	【問合せ2】 子ども向けの事業における指導者紹介
8月10日	【活動】 上記相談3の実施、以降計5回活動
8月13日	【活動】 上記相談2の実施
8月22日	【相談4】 富岡地区で青年活動をしている団体の情報提供を希望
9月21日	【相談5】 ボランティア活動の紹介希望
10月 5日	【相談6】 ボランティア活動者に対する事業周知の協力依頼

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- (学生ボランティア団体の代表者)
- ・ 結成して間もない団体にボランティア活動先を紹介していただき、ありがたかった。学生にとって有意義な体験をすることができた。
- (スポーツ団体の代表者)
- ・ 毎年、合宿でレクリエーションを行う際の指導者を紹介していただき、助かっている。子ども同士のチームワークを高めるプログラムの提供をいただいている。

(2) 成果

- ①今年度、初めて任意団体（子ども達に体験の場を提供する団体）の創設について相談を受けた。当会館のネットワークを生かし、任意団体を創設した経験がある方に助言を求め、対応することができた。この団体が活動することにより、子ども達が体験活動する機会の充実化を図ることができる。
- ②創設したばかりのボランティア団体に活動の場を提供することができた。活動を通して結束を図り、団体の活動が活性化することが期待できる。

(3) 課題

- ・ボランティアや指導者紹介の問い合わせは、ある程度の件数があるものの、実際に紹介まで行ったケースは少ない。新型コロナウイルスの影響により、事業の中止や縮小などを余儀なくされたようである。今後、感染対策は緩和される見通しではあるが、状況を把握しながら進めていく必要がある。

6 事業の様子



レクリエーションの指導



学生ボランティア団体が活動

担当 山田 貴史

(3) 青少年の交流・体験活動事業

「ふれあい・ゆうあい交流フェスタ」

1 事業目標

心のバリアフリーと温かな社会の実現を目指して、ともにふれあい、ともに活動する楽しさを体験すると共に、ボランティア活動を促進するためのフェスティバルを開催する。
※新型コロナウイルス感染対策のため、パネル展示のみの開催形式に変更
※開催形式の変更は、実行委員会で決議され、県教育委員会へ指定管理事業計画の変更協議を行った。

2 事業概要

(1) 期日：通年

実行委員会：第1回6月24日（金）、第2回8月17日（水）、第3回9月28日（水）
第4回11月2日（水）、第5回1月18日（水）

(2) 参加状況

参加団体：

実行委員会：参加者合計34名

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生4 ~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数						3	31	34

3 事業実施のポイント

新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、開催内容をパネル展示のみとした。
1月18日～1ヶ月間、当会館内にてパネル展示コーナーを設け、実行委員会所属団体の活動紹介・当事業のプログラムを紹介（過年度の様子）した。

【経緯】

実行委員会で協議を重ね、プログラムを縮小（体験ブース・パネル展示）、参加者実行委員会所属団体のみに限定して開催する方向で進めていたが、新型コロナウイルス感染状況等からパネル展示のみの開催になった。

4 事業評価

(1) 成果

・新型コロナウイルス感染拡大により、一昨年度・昨年度と2年に渡って、実行委員会で代替案などの検討をしてきたが、実施に至らなかった。今年度も小規模での開催を模索したものの、結果的にパネル展示のみとなったが、当事業の再開に向けて第一歩を踏み出すことができた。

(2) 課題

・コロナ禍における活動制限については、実行委員会所属団体内でも対応が多様であり、開催形式やプログラムを一本化することが難しい。
・健常者とは異なり、マスクの着用が難しい障がい者は多い。今後、新型コロナウイルス感染対策が緩和される見通しではあるが、対策方法については慎重な判断が求められる。
・上記のことから、次年度の開催も新型コロナ流行前のようなプログラムは難しく、状況に応じて新たなプログラムを構築することが求められる。

5 事業の様子



パネル展示会場



パネル設置



実行委員会（会議）

担当 山田 貴史

「親子ふれあい体験教室（おやこ木工教室）」

1 事業目標

共同・協力作業を行うことにより、親子のふれあいや参加者同士の交流を深め、新たな人間関係のネットワークの構築を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和4年7月23日（土）
 (2) 参加対象及び募集人数：県内の小学3～6年生の親子 10組20名
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 24名、 申込人数 75名（キャンセル 2名） ※家族数 11世帯

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生4 ～6年	中学生	高校生	専 門 短 大 大 学 生	社会人 保護者	総計
参加者数		4	9				11	24

イ スタッフ ・講師 4名

3 事業実施のポイント

- ①昨年度と同様に材料の木材を1家族1本配布して、思い思いの作品を制作した。昨年度、木材1本の分量を明確にイメージできていない参加者がいたため、作業に取り組む前に講師が的確なアドバイスを行った。
- ②新型コロナウイルス感染拡大防止のため、木工作业において共有する道具は、こまめに消毒作業を行った。また、食事会場ではテーブルの間隔を十分に確保した。
- ③「親子のキズナをカタチに」をキャッチフレーズに沿い、作品と共に親子で記念撮影をするコーナーを設けた。
- ④レクリエーションプログラムだが、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、心の距離を縮められるプログラムを提供した。各講師と打ち合わせを重ね、安全面と交流の双方を考慮した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
7月 23日 (土)	開講式 コミュニケーションゲーム (レクリエーション) 木工道具の使い方 共通作品の制作 自由（オリジナル）作品 の制作	自由（オリジナル）作品の制 作…午前の続き ふりかえり・閉講式	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・作業に入る前にレクリエーション、完成後の撮影コーナーがあり、ワークショップとして充実していた。丁寧に教えていただき、ありがたい。
- ・普段、子どもと何かを一緒に作る事が無いので、良い経験だった。子どもが思ったよりも積極的に作っていたので、嬉しかった。
- ・日頃、木材に触れることが少ないので、このような機会をいただき、大変有意義だった。
- ・事前にアイデアを考えたものの、実際に始めると思い通りにならず難しかったが、親子で考えながら作業するのは楽しかった。

(2) 成果

- ・親子で協力しながら作業をしており、プログラムを通じて、親子のふれあいを深めることができた。
- ・講師の指導が適切で、全参加者が時間内に作品を仕上げることができた。
- ・レクリエーションは、事業の趣旨に沿うプログラム構成だった。講師（青少年団体）は、コロナ禍で実践する機会が少ない中、レクリエーションの研究を行うなど日頃の努力と成果が感じられた。

(3) 課題

- ・以前から木材の価格が値上げ傾向の中、近年は急激に物価が高騰しているため、参加費の見直しが必要である。多くの方が参加しやすくなるように参加費を調整したい。
- ・次年度はウィルス感染対策が緩和されるため、体験の機会を増やすという観点から参加人数を見直したい。しかし、少人数の方がきめ細やかな指導を行えるメリットがあるため、双方のバランスを考慮して募集人数を調整する必要がある。

6 事業の様子



道具の使い方



ノコギリを使う親子



糸ノコギリを使う親子



作品鑑賞（ふりかえり）



記念撮影コーナー



レクリエーション

担当 山田 貴史

「高校生写真講座 デジカメワークショップ」

1 事業目標

・デジタル写真に対する知識や技能を高める機会を高校生に提供し、班活動による写真撮影および組み写真作品の制作・発表を通して、参加者同士の交流を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和4年9月10日(土)
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在学の高校生 30名
 (3) 参加状況

ア 参加者合計36名、 申込人数45名（キャンセル11名）

内 訳	未就学児	小学生 1~3年		小学生 4~6年	中学生	高校生	専 門 短 大 大 学 生	社会人 保護者	総計
参加者数						36			36

イ スタッフ ・ボランティア 0名
 ・講師4名 ・その他 14名（講師補助）

3 事業実施のポイント

- ①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和元年度まで行っていた1泊2日ではなく、日帰り日程とした。また、撮影場所も近隣の敷島公園・バラ園で実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策については、事前に各学校に周知し、しっかりと対応できるようにした。
- ②高校生の写真作品について研究している外部講師を招き、よりよい撮影・作品制作を行うため助言した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
9月 10日 (土)	◆開講式 ◆講義 ・カメラの使い方 ・組写真の構成 ◆撮影活動（敷島公園）	◆組写真制作 写真印刷・プリンタ使用法 ◆作品発表 プレゼンテーション形式 ◆講評 ◆閉講式	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【交流・協力】

- ・2校連合班で初めて会った人と協力した撮影活動は、はじめは不安だったが交流を深められてよかった。
- ・組写真を作るのは初めてで不安もあったが、仲間と協力して1つの作品にすることができた。普段の部活動は個人活動が多いため、仲間と協力する活動はよい経験になった。

【組写真制作・撮影活動】

- ・組写真のテーマを決めることにより、ただ統一感を出すだけでなく、作品のイメージや物語をつくることもできることに感動した。
- ・自分たちでは気付くことができない視点からアドバイスを頂き、撮影技術の向上につながると感じた。
- ・被写像をお願いする際、もっと多くの方に声をかければよかったと思った。人の写真を撮る機会が無かったので、貴重な体験だった。

(2) 成果

- ・今回は、大学の教授(写真学科)が講師を務めた。講義内容は、組写真を通して何を表現したいかについて、視点や技法についての概論から始まり、写真甲子園出品作品を紹介しながら具体的に分かりやすい説明だった。受講を生かした写真撮影・組写真作りだったため、時間を有効に使い表現したい視点を明確にした作品を仕上げることができた。
- ・発表の時間は、班ごとに講師2名が作品の優れている点を中心に、次の活動に繋がるような講評をしてくれた。
- ・例年と比べ、制作者のねらいがしっかりと表現できている作品が多く、ものの見方・捉え方・表現力等、高校生にとって学びの多い事業になった。

(3) 課題

- ・新型コロナウイルスの感染防止の観点から、撮影・制作活動のグループを学校単位で編制したが、より交流を深める内容とするには、他校との混合班で編制することを検討したい。(令和元年度までは、混合班で編制して実施していた)
- ・近年は急激に物価が高騰しているため、参加費の見直しが必要であるが、なるべく受講者の負担を軽減できるよう参加費を調整したい。

6 事業の様子



機材を活用して撮影



組写真作成



作品発表

担当 山田 貴史

(4) 青少年団体の育成及び指導事業

「青少年団体活動支援事業」 (夏休み宿題お助け隊)

1 事業目標

群青連協加盟団体が連携して、子ども達の課題解決能力や社会性を育む。また、各青少年団体の活動経験を生かして高校生ボランティアの養成を行い、団体活動やボランティア活動の魅力を発信する。

2 事業概要

(1) 期日：令和4年8月7日（日）

(2) 参加対象及び募集人数：小学1年～6年生60名、高校生ボランティア10名

(3) 参加状況

ア 参加者合計 39名、 申込人数 192名（キャンセル21名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生4 ～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		22	17					39

イ スタッフ ・ ボランティア 60名（群馬県青少年団体連絡協議会22名、高校生38名）

3 事業実施のポイント

- ①群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体（以下、群青連協）が連携して、小学生の夏休みの宿題の支援を行った。また、体験活動の機会として、紙コップフリスビー制作・フリスビー飛ばしを行い、ボランティア・児童を含め参加者の交流を図った。宿題支援と体験活動を組み合わせることで、子どもたちにより楽しんでもらえるよう工夫した。
- ②ボランティア養成として、高校生ボランティアを募集し、宿題の支援と体験活動の補助を行った。（昨年度は大学生ボランティアを募集したが、この時期はテスト期間と重なるため対象を変更した。）また、事前研修を行い、安心して楽しくボランティア活動ができるよう配慮した。
- ③新型コロナウイルス感染防止対策のため、宿題の内容を3コース（ドリル・ワーク、読書感想文、絵画ポスター）に分けて、一日参加の日程とした。また、青少年会館のマニュアルに沿って実施する他、人数の制限、各部屋での動線の表示、参加者への支援の距離の取り方などの工夫をして実施した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 7日 (日)	・ スタッフ集合 ・ 高校生ボランティア集合 ・ 高校生ボランティア事前 研修 ・ 開会式 ・ 宿題開始	・ 宿題再開 ・ 体験活動：紙コップフリス ビー制作、競争 ・ 閉会式 ・ 高校生ボランティアふりか えり	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

群青連協
・「多くの群青連協スタッフが集まり、余裕を持って対応できた。」「高校生がたくさん来てく

れて良かった。」などの意見があった。群青連協から5団体が参加し、事業を通して各団体間での交流が図れていたと感じる。

参加児童

- ・楽しく宿題や体験活動に取り組めた等の意見が多かった。また、「ボランティアの人から教えてもらってうれしかった。」「高校生と仲良くなれてよかった。」などの意見があり、参加児童にとってお兄さんお姉さんとの交流は楽しかったことがうかがえる。

高校生ボランティア

- ・事前研修については、「活動のやる気が高まった。」「緊張がほぐれた。」等の回答があった。宿題の支援については、「最初はあまり会話が續かない子でも、根気強く話しかけているとだんだん心を開いてくれて自分から話してくれるようになったので、それが一番嬉しかった。」等の回答があった。体験活動については、「一緒に紙コップフリスビーを作った子どもに友だち!と言ってもらえたのがうれしかった。」等の回答があった。

(2) 成果

- ・群青連協から5つの団体が参加した。事業内容について、感染防止対策を十分に行った上で、子どもたちが楽しめる内容で実施できた。参加児童、高校生ボランティアにとっても体験活動や交流ができる事業を行うことができた。また、群青連協が支援している姿を見ながら、高校生が支援している姿が随所で見られ、高校生にとってのお手本となっていた。
- ・募集定員は10名だったが、初日で39名の応募があり、群青連協と相談して応募者全員を受け入れた。高校生からは、「友人に誘われ、初めてボランティア活動に参加したが、予想以上に達成感もあるし、何よりすごく楽しめて、夏休みの思い出の一つになった。またここでボランティアしたいと思った。」などの意見があり、良い体験の機会になったと感じる。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとりながら、宿題支援、体験活動、参加者同士の交流ができる事業を実施できた。

(3) 課題

- ・参加児童の応募数が192名と人気のある事業だけに、2日間開催ができるか検討したい。
- ・読書感想文、絵画・ポスターへの応募が集中したため、宿題コースの見直しを検討したい。

6 事業の様子



ボランティア事前研修



開会式



ドリル・ワーク支援



読書感想文支援



絵画・ポスター支援



フリスビー競争

担当 北爪 勇貴

「青少年団体活動支援事業」 (おやこで茶道教室)

1 事業目標

茶道を通じた親子の体験教室を実施するため、茶道会青年部と青少年会館が協働して、企画・立案をする。また、その成果を事業として実践する。

2 事業概要

(1) 期日：令和4年12月4日（日）

(2) 参加対象及び募集人数：親子（小学生1名と保護者1名） 計20組40名
午前の部10組20名 午後の部10組20名

(3) 参加状況

ア 参加者合計 32名、 申込人数 128名（キャンセル8名） ※家族数 16世帯

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生4 ~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		11	5				16	32

イ スタッフ ・ ボランティア 11名（群馬県茶道会青年部11名）

3 事業実施のポイント

- ①群馬県茶道会青年部の計らいで午前と午後の2部制として初めて開催し、可能な限り多くの親子に参加してもらえよう工夫した。令和元年度以来3年ぶりに開催できた。
- ②新型コロナウイルス感染防止対策として人数制限を行い、和室1部屋の人数を5組10名とした。
- ③クリスマスツリーの練り菓子や雪だるまの干菓子など、季節感のあるお菓子とともにお茶を楽しめるよう工夫した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
12月 4日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式 ・茶道体験 ・アンケート記入 ・閉会式 	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式 ・茶道体験 ・アンケート記入 ・閉会式 	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

群馬県茶道会青年部

・「親子で活動といった点で、笑顔で活動出来たところを見ていて、私達もホッと和んだ。」
「子が親へ点てたお茶を飲んだ時の笑顔で、一気に場がなごみました。こちらもうれしく
なりました。」などの意見があった。指導する側も、和やかな雰囲気の中で楽しく活動
できたようである。

参加者（子ども）

・「まっ茶は、すごく苦いものだと思っていたけど、飲み始めるとすいすいごくごく飲めて、す
ごく楽しかったです。」「お母さんとお茶をつくったのはとてもたのしかったし、さいしょは
お茶がにがてだったけど、お母さんがつくってくれたお茶はおいしかったです。」などの意見
があり、茶道体験を通じて親子で楽しい時間を過ごせたようである。

参加者（保護者）

・「親子で一緒に参加できて良かったです。息子のたてたお茶が飲めて嬉しかったです。また参
加したいです。」「親子で一緒に参加でき、とても良い思い出ができました。娘がどうしても
参加したくて、申込開始前から、ずっと申し込んでと言われていたので、参加できて良かったです。」
などの意見あり、日本の伝統文化に親しみながら、親子で楽しい時間を過ごせたよう
である。

(2) 成果

・コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底し、3年ぶりに開催することができた。
・新型コロナ対策で、和室の人数制限を行って開催した。1部屋の組数を少なくしたため、群馬
県茶道会青年部の方のきめ細かな支援があり、親も子も落ち着いて茶道に親しむことができた。
・参加者から「季節のかわいらしいお菓子や器で素敵でした。」などの意見があり、季節を感じ
ながら、和気あいあいと茶会を開催できた。

(3) 課題

・64組128名の応募があり、茶道の関心が高いことが分かった。今後、保護者1人子ども2人
という人数設定や、開催日を増やすことが可能かどうか検討していきたい。

6 事業の様子



開会式



作法の説明



茶道具の説明



お茶の飲み方を体験



茶道体験（茶会）



茶道体験（茶会）

担当 北爪 勇貴

「青少年団体活動支援事業」
(目指せ！ギネス記録～君の飛行機はどこまで飛ぶ!?～)

1 事業目標

各種青少年団体活動の活性化や指導者の資質向上を支援するため、青少年団体と連携して各種事業を行う。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年1月29日（日）
 (2) 参加対象及び募集人数：小学1年～3年・小学4～6年 各30名
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 34名、 申込人数 38名（キャンセル4名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生4 ～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		29	5					34

イ スタッフ・ボランティア 11名（群馬県青少年団体連絡協議会）

※中学生・高校生交流ボランティア体験の受講者がボランティア実践（詳細は別頁）

3 事業実施のポイント

- ①群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体（以下、群青連協）と連携して、小学生向けの体験活動プログラムを行った。内容：紙飛行機づくり・紙飛行機とばし・スライムづくり
 ②開催の時間帯を下学年（1～3年生）・上学年（4～6年）に分け、それぞれ発達段階に応じたプログラムを行った。
 ③新型コロナウイルス感染拡大防止のため、材料の配布を予め小分けにするなど、参加者同士が接触しないよう配慮した。また、青少年会館のマニュアルに沿い、人数の制限・指導者および参加者同士の距離の取り方などを配慮して実施した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
1月 29日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ打ち合わせ ・会場・備品準備 ・低学年の部 開講式 スライムづくり 紙飛行機づくり 紙飛行機飛ばし (飛ばし大会) 閉会式 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の部 開講式 スライムづくり 紙飛行機づくり 紙飛行機飛ばし (飛ばし大会) 閉会式 	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【スタッフ】

- ・久しぶりに大人数での活動だったが、異年齢交流は子ども達にとって良い経験になるとを改めて確認できた。コロナに負けず、このような機会をつくっていいと良い。
- ・子ども達が笑顔で楽しんで活動できていた。高学年は、試行錯誤をしながら積極的に取り組んでいた点が素晴らしかった。

【参加者（小学生）】

- ・知らない人と仲良くなれて楽しかった。みんなと交流できて楽しかった。
- ・お兄さんがしゃべりかけてくれて、あまり緊張しなかった。
- ・また来たい。またやりたい。

(2) 成果

- ・上学年のプログラムは、スライムづくりの際にホウ砂の量を各自決めて作ったり、紙飛行機では共通のものから各自工夫したものを作って飛ばしたりするなど、発達段階に応じて実施することができた。
- ・紙飛行機飛ばしでは、何度か試し飛ばしを行ってから、記録会を行った。そして、閉会式前に上位3名の表彰を行い、全員に記録賞を渡すなど、参加者への細やかな配慮が感じられた。
- ・ステージ上から紙飛行機を飛ばす際、ステージに上がる階段・下りる階段を分けて一方通行にして飛ばす人は1人ずつにする等、安全面での十分な配慮があった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとりながらも、体験活動や交流ができる機会を提供することができた。

(3) 課題

- ・今回の群青連協加盟団体スタッフに新規の方が少なかった。少子化・新型コロナウイルスの影響での活動ができない団体も多い。今後、活動が活性化するよう支援が必要である。
- ・高学年の応募者が少なかったため、次年度も同事業を継続する際は、高学年の児童が興味を持ちそうなプログラム・PR方法について工夫が必要である。

6 事業の様子



紙飛行機づくり



紙飛行機飛ばし



スライムづくり

担当 山田 貴史

「青少年団体活動支援事業」 (ボランティアのつどい)

1 事業目標

VYS活動やボランティアに興味を持つ一般青少年を対象とした「ボランティアのつどい」を開催し、本会の活動を周知する。また、実践的活動として地域の小学生に対して「VYSと遊ぼう！！～今だからこそ、おもいきりの笑顔を～」を行うことで、VYS活動をより具体的に体験する機会を設け、活動の楽しさや充実感などを体感し、今後継続してVYS活動やボランティアを行う意欲を高めることを目指す。同時に、地域の小学生の体験的活動の場となるように、青少年をはじめ、他校、異学年の児童との関わりが持てるブースを展開する。

会員においては、VYS活動を紹介することを通して普段の活動を見つめ直し、活動に対する理解を深め、活動の拡充を意識する機会とする。

2 事業概要

(1) 期日：令和5年3月11日（土）

(2) 参加対象及び募集人数：高校生以上のボランティア20名、小学1年～3年生30名

(3) 参加状況

ア 参加者合計 33名、 申込人数 41名（キャンセル8名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生4 ～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		33						33

イ スタッフ ・ボランティア 40名

(群馬VYS連絡協議会10名、高校生28名、大学生1名、社会人1名)

3 事業実施のポイント

- ①各会場との準備をボランティアとVYSで一緒に行うことができた。
- ②参加児童を3班に分けて、3つの会場4つの体験ブースを回ることができるよう工夫した。
- ③本館空調工事期間中で部屋の利用制限があったが、会場として1階ロビーを利用するなど工夫して、実施した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
3月 11日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式 ・アイスブレイク（仲間作りのゲーム） ・午後の活動に向けた体験ブースと会場の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・「VYSと遊ぼう！！～今だからこそ、おもいきりの笑顔を～」開催 ・ふりかえり ・VYS各地区紹介 ・閉会式 ・アンケート記入 	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

参加者（ボランティア）

- ・夏休み宿題お助け隊に参加した生徒が4名、中高ボラに参加した生徒が5名、計9名が今年度二度目のボランティア参加であった。
- ・誘導・支援係は、各会場を巡りながら動線や各ブースでの支援について確認したり、各ブースの準備ではVYSの担当から説明を受け、午後参加する子ども達のことを考えながら準備したり、事業準備の大切さを学ぶことができた。
- ・子どもによって対応が変わるし、こっちの思い通りに動いてくれることがないので難しいなと思った。準備して、一緒に遊んで、子ども達が喜んでくれてうれしかった。
- ・初めてで、けっこう緊張していたけど、周りの高校生が優しく話しかけてくれて楽しく活動することができた。子ども達は一人一人性格が全然違って、面白かったが難しかった。経験がとても大切だと思った。

参加者（小学生）

- ・開会式では緊張気味で、最初にチャンバラ合戦をした班は、動きがぎこちなかったが、最後にチャンバラ合戦を行った班は、大きな声を出しながら対戦し、スライディングキャッチで旗を取り合うなど楽しく交流活動をしていた。
- ・作った缶バッジをすぐに胸に付けて、嬉しそうにしている子が多かった。
- ・どの班の子も話をよく聞いて、交流活動ができていた。

(2) 成果

- ・コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底し、4年ぶりに開催することができた。
- ・近隣の高校にチラシを持参したり、以前の事業に参加した生徒にメールで紹介したりした結果、28名の高校生が参加した。
- ・小学生の応募が少なかったが、近隣の小学校にチラシを持参して周知した結果、申込が41名になった。

(3) 課題

- ・VYSの活動が、地域によってばらつきがあるとともに、構成員の増加が鈍っているのが現状である。各地域はもちろんのこと、県全体で充実した活動ができるよう連携していきたい。

6 事業の様子



VYSと遊ぼう 開会式



缶バッジ作り



チャンバラ合戦



ストラックアウト



パッチンガエル



ボランティア集合写真

担当 北爪 勇貴

(5) 情報収集・情報提供システム事業

「ぐんま青少年ねっと」

1 事業目標

インターネット等を活用して青少年健全育成に関する情報収集を行い、学校、青少年団体指導者及びボランティアに関心のある青少年に向け、情報を発信する。
来館者にインターネット環境を提供し、青少年健全育成に関する情報収集の推進を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：通年
- (2) 参加対象及び募集人数：青少年、青少年指導者及び地域住民
- (3) 利用状況

学習情報コーナー利用者 82名

3月31日

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生		専門短 大大学 生	社会人 保護者	総計
参加者数			1	8	42			33	84

3 事業実施のポイント

- ①群馬県青少年会館ホームページの日常管理
施設利用案内や主催事業等の最新情報の掲載（更新）作業を行った。特に新型コロナウイルスに関連する情報（施設の利用法、事業実施の日程変更など）は、スピーディーに対応した。
- ②群馬県青少年会館ブログ・Facebook・ツイッターの記事投稿
当会館の主催事業・施設利用・館内の様子などについて、昨年度よりも情報発信数を増やした。また、2月24日にツイッターを開設した。
- ③会館における青少年関係情報提供システムの運用
情報機器の管理及び館内システムの保守等について、委託業者を通して行った。
- ④学習情報コーナーの再開
新型コロナウイルス感染対策のため閉鎖していたが、今年度の5月から再開した。

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・当会館ホームページの閲覧による施設利用や主催事業に関する問い合わせが多く、インターネット活用の効果を感じられる。施設案内や事業内容などを明確に伝えているため、対象者にとって有益な情報として活用されている。
- ・(学習情報コーナー利用者の声) 家での勉強はなかなか集中できないが、ここでは学習が進む。このようなコーナーを設けていただき、助かる。

(2) 成果

- ・各種ツールを活用し、当会館の情報を頻繁に更新している。特に新型コロナウイルスに関連する情報（施設利用方法、主催事業の日程変更など）は、速やかに情報を発信することにより、対象者に状況を伝えることができた。

- ・ブログの更新回数を増やすと共に、投稿内容（話題）の幅も広げたため、閲覧者にとって社会教育に関する有意義な情報を発信することができた。

(3) 課題

- ・情報提供システム運用における予算は、以前に比べて縮小傾向である。さらには、近年の物価高騰の影響も含め、限られた予算内でシステム運用が難しい状況である。本来であれば、職員用パソコン等は指定管理期間毎に全てを入れ替えたいところではあるが、中古パソコンを活用している。
- ・現在活用しているSNSは、ブログ・Facebook・YouTubeの3種である。青年層のブログ・Facebookユーザーは減少傾向であるため、他のSNS活用も検討したい。

6 事業の様子



当会館ホームページ



当会館ブログ



当会館Facebookページ



当会館YouTubeチャンネル



当会館Twitter

担当 山田 貴史

B 自主事業

(1) 青少年活動支援事業

「青少年会館友の会事業」

1 事業目標

群馬県青少年会館で活動するボランティア団体「青少年会館友の会」と連携し、青少年の健全育成活動を共催・協働で実施する。また、会員に青少年会館の各事業への参画やボランティア実践の機会を提供する。

2 事業概要

(1) 期日：令和4年4月～令和5年3月

(2) 参加対象及び募集人数：①指導者養成ユニット 社会人8名
②アドバンスユニット 大学生27名、高校生1名

(3) 参加状況

①指導者養成ユニット「親子でチャレンジ！バルーンアートをつくろう」

ア 参加者合計 24名、 申込人数 24名（キャンセル0名） ※家族数12世帯

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人・ 保護者	総計
参加者数		6	6				12	24

イ スタッフ・ボランティア1名 講師2名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数） 24名×1日＝24名

②指導者養成ユニット「クリスマスリースづくり」

ア 参加者合計 8名、 申込人数 8名（キャンセル0名） ※内、家族数は2世帯

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人・ 保護者	総計
参加者数			2				6	8

イ 講師1名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数） 8名×1日＝8名

③アドバンスユニット「ゆめすくーる」

ア 参加者合計 79名、 申込人数86名（キャンセル7名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人・ 保護者	総計
参加者数10/2		48	24					72
〃 10/9		40	21					61
〃 11/6		42	24					66
〃 12/18		35	19					54

イ スタッフ・ボランティア 28名

ウ 延べ参加人数（4回） 参加者253名 友の会89人

3 事業実施のポイント

- ①指導者養成ユニット「親子でチャレンジ！バルーンアートをつくろう」
会員が活動の幅を広げ、外部（生涯学習センター）の依頼にも指導者として活躍できた。
- ②指導者養成ユニット「クリスマスリースづくり」（昨年度未実施）
会員が自主的に活動を企画し、親子等にリースの作り方や素材の扱い方を指導した。
- ③アドバンスユニット「ゆめすくーる」
大学生会員が自主的に児童対象の体験活動を立案し、午前・午後で各3教室で実施できた。

4 日程

日時	会議等	午前	午後
----	-----	----	----

7月10日 (日)	指導者養成ユニット会議	活動打ち合わせ	
7月17日 (日)	アドバンスユニット会議	プログラムリハーサル	
8月27日 (土)	アドバンスユニット会議		スタッフ会議
9月25日 (日)	アドバンスユニット会議	参加児童の名簿確認	プログラム最終確認
10月2日 (日)	「ゆめすくーる」①	A 世界のことを学ぼう、B レクリエーションと工作、C パソコンの正しい使い方を学ぼうの3クラスを午前・午後に実施	
10月9日 (日)	「ゆめすくーる」②		
10月28日 (金)	「親子でチャレンジ! バルーンアートをつくろう」	バルーンアート指導	バルーンアート指導
11月6日 (日)	「ゆめすくーる」③	上記①、②と同じ	
12月4日 (日)	「クリスマスリースづくり」	クラフト指導	
12月17日 (土)	ゆめすくーる打ち合わせ		プログラム・教材準備
12月18日 (日)	「ゆめすくーる」④	上記①、②と同じ	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

①「親子でチャレンジ! バルーンアートをつくろう」 (参加者) 親子、友だちで楽しい時間が過ごせた。花・ブドウ・イチゴも作ってみたい。 (友の会) 自分たちのできることで親子に喜んでもらった。外部との協働も楽しめた。
②「クリスマスリースづくり」 (参加者) いろいろな自然素材があって驚いた。自分でも探してみたい。 (友の会) スキルを他の会員と共有したい。また、次回は新たな仲間作りとして開催したい。
③「ゆめすくーる」 (参加児童) みんなでゲームができて楽しかった。 留学生在いろいろ教えてくれて嬉しかった。 (保護者) 大学生の対応が子どもに優しく親切、会場案内も丁寧でよかった。(42/45) 活動の種類や回数を増やして欲しい。今後も継続して欲しい等。(20/45) (友の会) 子どもに活動を提供したかった。ボランティア活動に興味があり参加した。(19/22) 企画立案や日程調整、仲間とのコミュニケーションが大変だった。(15/22)

(2) 成果

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策に注意しながら、児童や親子を対象とした体験活動を実施することができた。 ・「ゆめすくーる」では学生が主体的に企画し、様々な体験活動が実施できた。 ・アドバンス指導者やOBの熱意とネットワークにより、今年度は県内4つの大学から学生が集まった。(県立女子大14人 高崎経済大5人 東京福祉大5人 群馬大3人)
--

(3) 課題

<ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成ユニットの会員数が一定数で停滞した状況が続いている。会長及び会員とユニット存続に向けた対策についての話し合いを継続する。 ・事業団事業に関わる機会を増やし、指導者・ボランティアとして活躍できる場を設ける。 ・アドバンスが企画する「ゆめすくーる」の実施は主体者である学生の人数に影響されるため、年度当初から学生の負担が少ない運営体制や実施回数と日程調整が必要である。
--

6 事業の様子



バルーンアート講師協力



ゆめすくーる (Bコース)



クリスマスリースづくり
担当 田中 康英

(2) 地域連携協力事業

「地域連携協力事業」

1 事業目標

市町村や県内団体及び学校等の要望に応じて、関係者と連携を図り、協働したプログラムを実施する。

2 事業概要

(1) 期日：令和3年8月～12月

(2) 対応状況

対応件数 3件

内 訳	小学校	中学校	高校	大学	団体	施設	その他		総計
対応件数				1		1	1		3

3 事業実施のポイント

- ①ライオンズクエストワークショップは、過年度は12月に実施していたが、参加対象の教職員が参加しやすい8月に実施時期を変更した。開催期間を2日から1日に短縮したが、学びの密度を下げないように工夫した。
- ②当会館内・当会館外を会場にする双方のケースがあったが、新型コロナウイルス感染対策について、協力団体と慎重に協議した上で実施した。
- ③よりよい事業運営を行うために、連携団体と趣旨・運営方法などについて協議を重ね、参加者にとって有意義なプログラムを提供した。

4 日程

日程	午 前	午 後	夜
8月9日	ライオンズクエスト ワークショップ 開講式 学びの集団作り	ライフスキル教育の理解と 演習	
10月23日	あかぎフェスタ 打ち合わせ・開会式 ブース出展（檜の箸 づくり）	ブース出展（檜の箸づくり） 閉会式	
12月23日		社会教育施設の現場学習（群馬大学「社会教育実践研修Ⅱ」） 施設の役割・専門的職員 主催事業・関連機関との連携	
7月29日 2月 7日		体験の風をおこそう運動実行委員会	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ◆ライオンズクエストワークショップ
 - ・同じ職業（幼児教育）の方との講習はあるが、今回のように小中学校の先生方と一緒に学ぶ経験が無かったため、情報交換と交流を深められる貴重な機会になった。
 - ・参加者が主体の活動だったため、積極的な気持ちになった。ふりかえりの時間が適度に設けられていたため、他の参加者の意見や感想を聞くことにより、深い学びにつながった。
- ◆あかぎフェスタ
 - ・創作活動ブースでは、いろいろな自然素材に触れることができて良かった。
 - ・コロナ禍において、家で過ごす時間ばかりの生活だったが、久しぶりに外の空気・人々に触れて、有意義な体験ができた。
- ◆社会教育施設の現場学習（群馬大学「社会教育実践研修Ⅱ」）
 - ・教育学部の学生は、学校教育について学んでいるが、社会教育を知る機会は貴重だった。

(2) 成果

- ◆ライオンズクエストワークショップ
 - ・幼児教育、学校教育、企業経営者（ライオンズクラブ会員）が一同に受講し、ワークショップを通して互いの意見交換や交流を図ることができた。地域や民間とも協力して社会一体となることの重要性を伝えることができた。
- ◆あかぎフェスタ
 - ・素材の魅力を肌で感じ取りながら行った制作活動は、子どもたちにとって貴重な体験の場である。また、普段の生活で使うことがない道具（カンナ）を用いる機会も有意義である。
- ◆社会教育施設の現場学習（群馬大学「社会教育実践研修Ⅱ」）
 - ・受講者の多くは教職員を目指すと思われるが、社会教育を知った上で学校職に就くことにより、柔軟な指導が期待できる。現場で学ぶ機会は貴重であり、その経験を今後の進路で生かすことができる。

(3) 課題

- ・ライオンズクエストワークショップの参加者募集については、市町村の教育委員会に依頼して周知していただいているが、それだけでは参加者が集まらない現状である。今回、実施時期や開催期間の見直しを図ったが、参加者数は昨年比で微増だった。

6 事業の様子



ライオンズクエスト
(模擬授業計画・立案)



あかぎフェスタ
(檜の箸づくり)



群馬大学
(社会教育実践研修Ⅱ)

担当 山田 貴史

(3) 補助事業

「団体補助」

1 事業目標

団体の活性化を図るために、会館に事務局を置く5団体へ補助金を交付する。(4万円×5団体)
--

2 事業概要

青少年団体が安定した事務局運営ができるよう、会館に事務局を構える5団体（群馬県青少年団体連絡協議会、日本ボーイスカウト群馬県連盟、一般社団法人ガールスカウト群馬県連盟、公益社団法人群馬県子ども会育成連合会、群馬県青年団連合会）に対して、1団体あたり4万円の補助金（青少年団体育成費）を交付した。

担当 山田 貴史

C 受託事業 青少年自立・再学習支援事業 「青少年自立・再学習支援事業」(G-SKY Plan)

1 事業目標

不登校、非行、ひきこもり、ニートなどの様々な悩みを抱えている青少年のために、相談活動や体験活動をとおして立ち直りを支援する。また、再び勉強をしたいという青少年のために、各種情報や勉強場所の提供や学習相談も行う。

2 事業概要

- (1) 期日：通年
 (2) 参加対象者及び募集人数：中学生・高校生・20歳未満の若者及びその保護者・関係者
 (3) 参加状況
 ア 参加者合計
 月別状況 (3月31日現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談申込者数	4	4	4	3	8	3	4	4	1	0	1	1	37
相談実施数(面接、電話、メール等)	8	19	57	87	74	99	78	64	47	36	110	14	693
進路相談会					38		47						85
体験活動申込み人数 (内 申し込み人数新規)			1	2	2	4	3	4	2	4	2		24
			1	2	1	4	3	3	1	2	1		18
体験活動実施件数			1	2	2	4	3	4	1	4	2	0	23

- ※1 当該月の新規相談対象生徒数
 ※2 相談実施数は、対象生徒・保護者・教員等からの延べ相談数
 ※3 体験活動申込みは、実人数
 イ スタッフ ・体験活動コーディネーター (CN) 6名
 ・事業コーディネーター(会館職員) 1名

3 事業実施のポイント

- ◎悩みを抱える青少年の心をほぐし、自己肯定感や自信を高め、立ち直りを支援する。
 ① 体験活動の充実
 ・事前の相談で本人の希望にあった事業所等の紹介
 ・CNによる体験活動実施前の本人・学校・事業所連携の潤滑化
 ② 再学習支援の充実
 ・学習方法の相談、進路情報の提供
 ・進路相談会での事前予約による面談

4 日程

- 合同会議
 第1回 4/15(金) 10:00～12:00 委嘱状交付、令和4年度事業説明、令和3年度活動状況報告等
 第2回 7/ 7(木) 10:00～12:00 活動状況報告、事例報告、進路相談会について
 第3回 12/ 9(金) 10:00～12:00 活動状況報告、事例報告
 第4回 3/ 8(水) 10:00～12:30 CN対象研修会、活動状況報告、令和5年度に向けて
 ○ 進路相談会
 第1回 8/28(日) 13:00～16:00 場所：群馬県青少年会館
 第2回 10/22(土) 13:00～16:00 場所：群馬県青少年会館
 事前予約で希望のあったCN、ステップアップ学習相談員、前橋清陵高校通信制、高崎高校通信制、桐生高校通信制、太田フレックス高校、第一学院高校、クラーク記念国際高校、わせがく高校、白根開善高校がブースで対応した。参加者には通信制高校やサポート校等の資料を配布した。

5 事業評価

① 参加者の満足度(アンケート結果及び活動状況所見)

- ◎ 体験活動
 ・米を作るのにこんなに大変なことなのか知ることができて良かったです。
 ・大変だったことは、重い木材を運んだことです。良かったことは、どんなことをしているのかを見ることができたり、少し手伝えたりしたことです。勉強をして、高校に行って、大工になるという夢をかなえたいです。
 ・本を探す作業では、見つからない本が出て、皆さんと探した。番号が違ったり、別の場所に入っていたりしたが、見つかって良かった。カウンターに立たせてもらったときは、最初は声が出なかったけど、声も出るようになって貸し出しができるようになった。話しかけられることもあったけど、話しかけられたことを伝えたり、答えようとしていたりすることができた。
 ・自分への自信につながりました。最初は不安でいっぱいでしたが、回数を重ねるにつれてその場に慣れるようになってきました。雨の日は大変でしたが、1日も休まずに行けたことが本当に良かったです。
 ◎ 再学習支援
 ○ 進路相談会
 ・土日の開催はありがたいです。
 ・個別に知りたいことが聞けたので有意義でした。とても参考になりました。
 ・相談にきてよかったです。ありがとうございました。
 ・とても親身になってアドバイスをいただきました。参考になりました。
 ・いろいろな学校の話を開けて良かったです。

- ・このような会をありがとうございました。皆様それぞれが親身になってくださり、ありがたかったです。
- ・とても親切に対応していただき、相談にきてよかったですと思います。
- ・もう少し具体的な話をお聞きしたいような気がしましたが、時期が早かったみたいです。

② 成果

◎体験活動

- ・体験活動申込みが18名(中学生14名、高校生2名、中学卒業者2名)、延べ24回実施した。
- ・体験活動後に良い方向に変化した生徒等が多かった。直後の様子を見ると、表情が明るくなり、やりきったという自信がうかがえた。しばらくして、引きこもりがちだった生徒が登校できるようになったり、支援センター(適応指導教室)に通うことができるようになったり、夜遅くまで起きていた生徒が朝早く起きられるようになったり等の変化も見られた。働くことをとおして喜びを感じたり、事業所の方に認められたり、交流が図れたりしたことが要因であると考えられる。
- ・中学3年生7名については、高校決定者1名、高校受験予定4名、就職希望1名、未決定1名である。中学2年生については、登校2名、支援センター通室3名である。中学1年生については、登校1名、病休1名である。高校生については専門学校決定者1名、学校を休みがち1名である。
- ・中学卒業者2名については、通信制高校受験1名、海外への短期留学予定1名である。

◎再学習支援

○進路相談会(全体)

- ・中学生8名・高校生5名・保護者等42名・退学既卒者2名、学校・行政関係1名、関係機関・事業団等40名の計98名の出席があった。
- ・参加者は県内各地から参加し、前橋市9組、高崎市8組、吉岡町5組、伊勢崎市4組、桐生市3組、玉村町2組、渋川市1組、沼田市1組、藤岡市1組、甘楽町1組、榛東村1組、高山村1組、計37組であった。
- ・相談内容は悩みや進路34件、高校や高卒認定51件、就職0件、計85件。その後の面談や高校見学につながるなど進路決定について参考になる相談が展開された。

○学習相談

- ・体験活動は実施せず、学習相談だけの対象者は18名。定期的な面談や電話相談、家庭訪問等、実態に応じて支援を展開した。

③ 課題

◎体験活動

- ・体験活動後のフォローの仕方について課題があると感じている。生徒については、学校等と相談しながら行えるが、既卒者については、本人や家庭との連絡の仕方やタイミング、回数等難しさを感じている。コーディネーター会議で相談する時間を取り、対策を考えていく必要があると考える。

◎再学習支援

- ・進路相談会に参加しているサポート校以外に県内のサポート校が増加してきている。参加基準を明確にすることで、参加校数の調整を図っていきたい。

6 事業の様子



合同会議



進路相談会(第1回・8月)



進路相談会(第2回・10月)



体験活動【農業①】



体験の反省会【農業②】



事業所への感謝状贈呈訪問

担当 根岸 保夫

「青少年自立・再学習支援事業」
(地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業)

1 事業目標

学力格差の解消及び高等学校中退者等の進学・就労に資するよう、高校中退者等を対象に高等学校卒業程度の学力の習得を目指し、学習相談及び学習支援を行う。

2 事業概要

(1) 期日：令和4年4月1日～令和5年3月14日

(2) 参加対象及び募集人数：高校中退者・中学校卒業後進路未決定者等

(3) 参加状況

①学習相談

(単位：人) 3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
当月新規学習相談者数	13	4	3	0	2	2	0	4	0	0	4	1	33		
当月支援学習相談者実人数	13	16	10	17	14	13	11	9	13	7	11	6	140		
のべ人数	電話 メール	本人	22	23	16	18	15	11	17	6	18	7	12	2	167
		保護者	14	5	1	3	6	6	6	6	5	4	5	2	63
		その他	0	2	0	2	1	0	0	1	3	0	3	0	12
	面談	本人	11	12	16	47	20	31	26	24	23	26	25	7	268
		保護者	3	6	3	3	9	1	2	5	5	3	8	1	49
		その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

②学習支援(学習会参加)

(単位：人) 3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加者数	3	2	4	5	5	6	5	7	5	4	4	3	53
のべ人数	5	4	12	29	8	21	20	16	13	10	9	3	150

3 事業実施のポイント

- ①当事業の開始時に、昨年からの継続で群馬大学共同教育学部4年生5名に学習支援員を依頼した。事業内容を理解し、個に応じた支援ができた。
- ②学習支援員の業務日誌を有効に活用し、継続的な支援を心がけた。学習会事前事後には学習支援員と学習相談員との打合せ報告を短時間に行い、学習相談者への支援の充実に努めた。
- ③学習相談員と相談者が連絡を取りやすくするために、当事業専用のスマートフォンを活用した。
- ④2人の学習相談員と担当職員が学習相談者の情報を共有し、相談者への支援が円滑にできるように、相談員の業務日誌・引き継ぎカード・短時間の打ち合わせ等を活用した。

4 日程

日程	午前	午後	夜
4月～3月 随時	学習相談	学習相談	
4月～3月 主に土日	学習相談	学習会 年間60回開催	
8月28日		第1回進路相談会	
10月22日		第2回進路相談会	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度 学習相談者のアンケートから抜粋

- ・数学が難しかったけれど、少し理解できるようになれたので良かったです。
- ・とても集中できる環境で勉強に取り組みやすかったです。支援員の大学生の方も声をたくさんかけて下さり、すごく優しくかったです。自分以外にも勉強をしている人がいる環境は勉強がよりはかどると改めて思いました。
- ・世界史の勉強を始める前に過去問を見たときは、全く解けませんでしたが、やってみたら点が取れていたのも、意外に頭に入っていたようで安心しました。
- ・(全科目合格となり) 学習するきっかけを作ってもらい、本当に感謝しています。
- ・(全科目合格となり) 大学進学について、大学の情報や奨学金・大学生活等についても、身近な大学生である支援員から話を聞く機会を得ました。ありがとうございました。

(2) 成果

- ・コロナ禍ではあったが、学習会では距離を保って着席するなど、感染対策を十分に図って実施した。面談時・学習支援時は特に留意し、事業運営に支障がないよう配慮した。
- ・新規相談者が当事業の情報を入手した経路は、G-SKY Planや県子ども若者支援協議会をはじめ、知人からの紹介、引きこもり支援センター、高校からの情報があり、今年度もインターネット検索が目立ち、広報活動や地域・団体等との連携成果が現れている。
- ・当事業の学習者(相談者)は、高卒認定試験後、そのほとんどが大学・専門学校に進学を予定(または進学に向けて学習継続)している。
- ・学習者については、本人の状況を把握し、本人への連絡や情報提供については適切な時期を見計らって実施し、個別支援の充実に努めることができた。
- ・第1回高卒認定試験の結果(4名受験)
学習会に参加していた2名の結果は、3科目受験・3科目合格…全科目合格(履修単位と併せて)、4科目受験4科目合格…科目合格である。
電話と面談のみの2名の受験結果は、3科目受験3科目合格…全科目合格(履修単位と併せて)である。
- ・第2回高卒認定試験の結果(7名受験)
学習会に参加していた4名の受験結果は、4科目受験4科目合格…全科目合格(第1回の科目合格者)、8科目受験・8科目合格…全科目合格、1科目受験・1科目合格…全科目合格、2科目受験・2科目合格…全科目合格である。
電話と面談のみの3名の受験結果は、2科目受験・2科目合格…全科目合格(過年度合格と併せて)、4科目受験・4科目合格…全科目合格(履修単位と併せて)、8科目受験・8科目合格…全科目合格である。

(3) 課題

- ・高校中退者や社会人の中にも、今後の進路の1つとして、高校卒業・高卒認定資格取得を希望しているにもかかわらず、高卒認定試験の制度やステップアップ事業の認知が不十分である。インターネット検索が増加してきているので必要とする人に情報が届くよう、さらなる広報活動の工夫が望ましい。
- ・アルバイトや勤務の都合により、学習会に参加できない相談者も多く、平日に学習相談(面談)・学習支援をすることも多くなった。勤務状況が厳しい中で土日に仕事が入り、日程調整ができないとの背景がある。
- ・相談者の中には、特別な配慮が必要な方もいる。生育歴・家庭環境等、デリケートな面もあるので、丁寧に寄り添うように関わっていくことが肝要である。
- ・学習会の会場が青少年会館のみなので、交通の便を考えると、高校生相当の年齢の参加者は送迎が必要になるケースが多い。

担当 山田 貴史

2 重要な契約等に関する事項

指定管理関係

名 称 (契約期)	内 容	契約の相手方	金 額 (円)
群馬県青少年会館の管理及び運営に関する基本協定 (令和2年3月13日)	指定管理者として群馬県青少年会館の管理及び運営を5年間（令和2年度～令和6年度）実施する上での基本項目の協定。 令和2年12月1日：管理費用の総額を342,084,756円に変更。 令和3年3月31日：管理費用の総額を345,507,390円に変更。 令和4年3月31日：協定本文第18条中「群馬県個人情報保護条例（平成12年群馬県条例第85号）を削除し、「その他法令」を加える。 協定別記2「群馬県青少年会館 管理業務等仕様書」中、「群馬県個人情報保護条例」を「個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）その他法令」に改める。 協定別記3「個人情報取扱特記事項」を改める。 協定別記4を改める。	群馬県教育委員会 教育長	345,507,390 (変更後)
群馬県青少年会館の管理及び運営に関する年度協定書 (令和4年4月1日)	上記基本協定書に基づき、群馬県青少年会館の管理及び運営の1年間（令和4年度）の管理費用、特定業務等の協定。	群馬県教育委員会 教育長	67,773,000

受託事業関係

名 称 (契約期)	内 容	契約の相手方	金 額 (円)
令和4年度青少年自立・再学習支援事業 「G-SKY Plan」 (令和4年4月1日)	悩みを抱える青少年及び保護者に対して相談を行い、必要に応じて体験活動を実施するなどして生活を充実させ、不登校やひきこもりからの脱却や社会的自立を支援する。また、	群馬県教育委員会 教育長	4,999,975

	<p>高校中退者等の再学習のための相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援体制の充実を図り、各種情報の提供を行う。 		
<p>令和4年度青少年自立・再学習支援事業</p> <p>「地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業」</p> <p>(令和4年4月1日)</p>	<p>高校中退者等を対象とした学び直しのための支援を行う。</p> <p>高校卒業程度認定試験等に関わる相談及び情報提供と、希望者に応じて会館での学習支援を行う。</p>	<p>群馬県教育委員会 教育長</p>	<p>2,700,000</p>

3 役員会等に関する事項

(1) 理事会、評議員会

区分	開催期日等	出席者数	議事事項	審議結果
第36回 理事会 (定時)	令和4年 5月18日	理事8名 監事1名	〔承認事項〕 第1号 令和3年度事業報告に関する件 第2号 令和3年度決算に関する件 〔決議事項〕 第1号 第28回評議員会(定時)の招集に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長及び常務理事の職務執行状況について	原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり決議 資料を基に報告
第28回 評議員会 (定時)	令和4年 6月15日	評議員 4名 理事2名 監事1名	〔報告事項〕 第1号 令和3年度事業報告について 第2号 理事長の職務の執行状況について 〔承認事項〕 第1号 令和3年度決算に関する件 〔決議事項〕 第1号 評議員の選任に関する件 第2号 監事の選任に関する件	資料を基に報告 資料を基に報告 原案どおり承認 原案どおり決議
第37回 理事会 (定時)	令和5年 3月17日	理事7名 監事1名	〔決議事項〕 第1号 令和5年度事業計画に関する件 第2号 令和5年度収支予算に関する件 第3号 事務局の組織改正に関する件 第4号 第29回評議員会(臨時)の招集に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長及び常務理事の職務執行状況について	原案どおり決議 原案どおり決議 原案どおり決議 原案どおり決議 資料を基に報告
第29回 評議員会 (臨時)	令和5年 3月22日	評議員 4名 理事2名 監事2名	〔決議事項〕 第1号 常務理事の年俸の変更に関する件 〔承認事項〕 第1号 令和5年度事業計画に関する件 第2号 令和5年度収支予算に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長の職務執行状況について 第2号 事務局の組織改正について	原案どおり決議 原案どおり承認 原案どおり承認 資料を基に報告 資料を基に報告

(2) 運営委員会

新型コロナウイルス対策を考慮し、運営委員会は中止とし、資料のみ送付した。

区分	送付日	資料内容
資料送付	令和5年 8月6日	令和3年度事業報告書、令和4年度事業計画書